

# ピロリ菌のお話

## ◎ピロリ菌とは？

ピロリ菌は 1982 年に発見された胃の粘膜に住みつく細菌です。



## ◎原因は？

大人になってからの日常生活ではなく、多くは幼児期に経口感染すると言われています。しかし、感染経路は未だ充分にわかっていません。

## ◎感染するとどうなるか？

炎症が起きれば感染部位が拡大し、最終的には胃粘膜全体に広がってしまいます。この胃の粘膜が薄くやせてしまう状態（萎縮）が進んだ慢性萎縮性胃炎という状態が「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」です。これが胃潰瘍や胃がんの一因ともいわれています。このリスクを免れるために、除菌する必要があります。

## ◎ピロリ菌の検出

ピロリ菌を見つける検査は大きく分けて内視鏡を使う方法と使わない方法があります。使わない方法は胃全体を診断することが可能なため一般に広く行われている検査です。

### 1) 尿素呼気試験

診断薬を服用し服用前後の呼気から診断する精度の高い診断法です。

### 2) 血中抗体検査

感染すると抵抗力として菌に対する抗体を作ります。採血にて血中の抗体を調べる検査です。

### 3) 糞便中抗原測定

糞便中のピロリ菌の抗原の有無を調べる方法です。



尿素呼気試験

## ◎ピロリ菌で陽性だったら？

検査にて陽性である場合、除菌治療を行います。除菌治療には、胃酸の分泌を抑制する薬と抗生物質の2種が用いられます。これらを一週間服用すれば約8割の方が除菌に成功すると言われています。

除菌薬服用後、胃の中に本当にピロリ菌がいなくなったかどうかを見極めるために、ピロリ菌の有無の判定検査を行います。一度で除菌できなければ、二次除菌のプログラムをおこないます。

除菌に成功しても胃の粘膜が正常に戻るのに時間がかかるため、それが原因となる胃潰瘍や胃がんにかからないわけではありません。ですから、除菌後も定期的に内視鏡検査を受けて胃の状態を評価する必要があります。

健康管理センターでは、人間ドック、定期健康診断を受診いただいた際にオプションとして **ヘリコバクター・ピロリ抗体検査** (別途料金) をおこなっています。受付時にお申し出ください。